１６．急性心筋梗塞患者に対する入院当日若しくは翌日におけるアスピリン等投与率

算式

分母対象例のうち入院当日若しくは翌日の

【分子】　処方歴に「アスピリン」「バファリン」等、アスピリン処方がされていた患者数

【分母】　測定期間内の退院患者のうち、退院時の主病名が「急性心筋梗塞」であり、3日以上の入院期間があり、退院時転帰は死亡以外であった患者数

※疾患コード　050030（急性心筋梗塞、再発性心筋梗塞）
※ICD-10　I21$

定義

退院時の主病名が「急性心筋梗塞」で3日以上入院しかつ死亡以外の患者のうち「アスピリン」「バファリン」等が処方されていた患者の割合

指標の解説

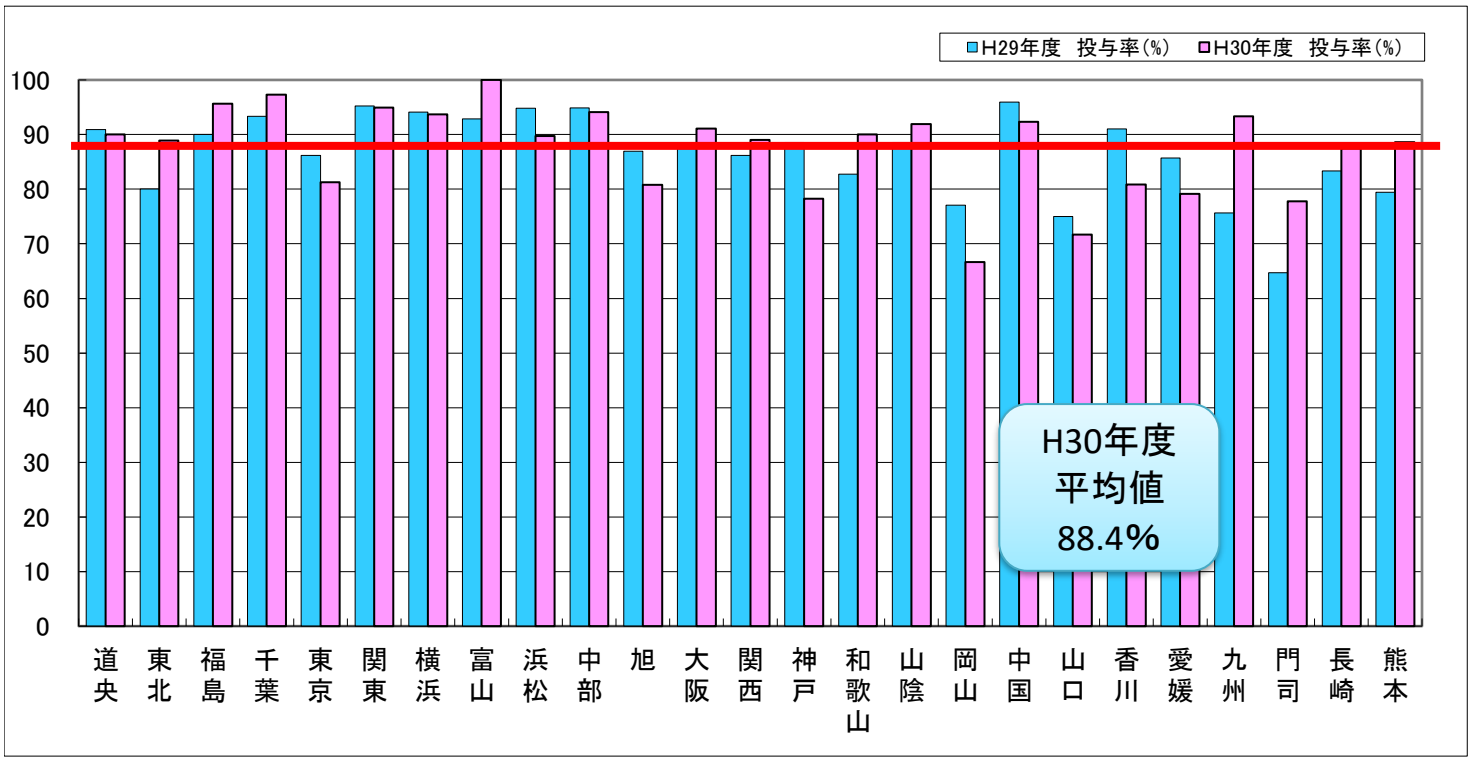
ＤＰＣデータより抽出

医学的根拠（EBM)に基づく標準的な医療の提供に関して、退院時の主病名が「急性心筋梗塞」であり、3日以上の入院期間がある患者へのアスピリンの投与について入院当日若しくは翌日におけるアスピリンの投与状況から評価する。

急性心筋梗塞の再発予防は重要であり、アスピリンの投与は急性心筋梗塞の予後を改善させるため、標準的な治療の一つとされている。

投与率が高い場合は、標準的な診療が適切に行われていると評価できる。

１６．急性心筋梗塞患者に対する入院当日若しくは翌日における アスピリン等投与率



		H29年度			H30年度		
No	施設名	分母	分子	投与率(%)	分母	分子	投与率(%)
1	道央	11	10	90.9	10	9	90.0
2	東北	5	4	80.0	9	8	88.9
3	福島	30	27	90.0	23	22	95.7
4	千葉	60	56	93.3	74	72	97.3
5	東京	29	25	86.2	16	13	81.3
6	関東	63	60	95.2	59	56	94.9
7	横浜	102	96	94.1	111	104	93.7
8	富山	14	13	92.9	14	14	100.0
9	浜松	58	55	94.8	78	70	89.7
10	中部	39	37	94.9	51	48	94.1
11	旭	23	20	87.0	26	21	80.8
12	大阪	143	125	87.4	146	133	91.1
13	関西	116	100	86.2	91	81	89.0
14	神戸	35	31	88.6	23	18	78.3
15	和歌山	29	24	82.8	40	36	90.0
16	山陰	61	54	88.5	62	57	91.9
17	岡山	61	47	77.0	60	40	66.7
18	中国	49	47	95.9	39	36	92.3
19	山口	56	42	75.0	53	38	71.7
20	香川	67	61	91.0	47	38	80.9
21	愛媛	21	18	85.7	24	19	79.2
22	九州	37	28	75.7	30	28	93.3
23	門司	17	11	64.7	9	7	77.8
24	長崎	12	10	83.3	16	14	87.5
25	熊本	34	27	79.4	44	39	88.6
合計		1,172	1,028	87.7	1,155	1,021	88.4
平均	500床以上	468	422	90.2	467	430	92.1
	400床以上	216	188	87.0	176	154	87.5
	300床以上	416	359	86.3	443	381	86.0
	300床未満	72	59	81.9	69	56	81.2

※対象症例が複数ない施設については除外した。